藤女子大学
図書館だより
Fuji Women's University Library

新入生歓迎号

No.95
2018.4

CONTENTS

1. 大学でのあたらしい「まなび」とは?
…… 英語文化学科 工藤 雅之
4. 高校生･中学生の職場体験
5. LiSt活動報告 第2回
6. 国立国会図書館デジタル化資料送信サービス利用開始のご案内
7. 図書館からのお知らせ
7. 図書館委員会からのお知らせ
8. 図書館資料Navi 第11回
花川館の絵本･雑誌
本学非常勤講師(元本学保育学科 教授)
杉浦 篤子

大学でのあたらしい「まなび」とは?

英語文化学科 工藤 雅之

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。そして、藤女子大学へようこそ。在校生のみなさん、進級おめでとうございます。また新しい一年が始まります。ともに学んでいきましょう。

新入生のみなさんは、ワクワクの反面、毎日が緊張の連続、加えて新しいまなびに対する期待や不安でいっぱいのことと想像します。一浪の末、ようやく大学に入学した私は、大学での勉強の違いに戸惑った一方で、高校とは違ったまなびに少なからず楽しさを見出していたことを思い出します。おそらく、大学に入学して気づく変化は、学問に求められる態度の違いではないでしょうか? 大学生は履修科目も興味を深める分野も自分で決めます。大学での勉強を支えるものは、自ら進んで「まなぶ力」です。責任を持って自分のまなびを形づくることのできる学習者への転換、すなわち大人として学問に向かうことがカギになります。

近年、私の専門分野である教育方法学では、われわれは「いかにまなぶか」という問いが、多くの関心を集めています。なぜかといえば、一時的に頭に入った情報、つまり短期の記憶(正確には作動記憶)には限界があり、一定の時間が経つと大概の情報を忘れてしまいます。授業などで憶えさせられた事柄については、その忘却にかかる時間も早く、長く記憶に留めておくためには、直接的に(主体的に)体験するか、自ら分析を加えてパターン化するか、自分の記憶と関連付けるなど、情報が長期記憶で整理されるように処理する必要があります。そのために、

次ページへ続く↗

どんなまなび方が効果的か、どんな仕掛けが必要か、また、どんな環境を整えなければならないか、と疑問がどんどん湧くのですが、われわれの「まなび」の仕組みの解明は未だに研究の途上と言えます。

現代科学の礎を築いたガリレオは“You cannot teach a man anything; you can only help him find it within himself.”と言い、17世紀の時点で人に何かを教える（teach）ことは難しく、その価値に対する気づきを助けることしかできないという教え込みの限界を示しました。特に近年では、素朴理論などから、人としての発達や社会的な成長、加えて常識や知恵など学校外でわれわれがまなぶプロセスを踏まえると、teachingだけでは不十分であることが理解され始めました。加えて、学習を知識の伝達とその受容だけでなく、学習者の内的な情報蓄積の結果、変容が生まれる過程と捉え、学習者がいままで持っていた知識と、連携・統合しながら意味（理解）を見出していくものと解釈するようになりました。その結果、深いまなび目指して、まなび方そのものも変わってきたことも頷けるところです。アクティブ・ラーニングなどの学習者主体の教育手法は、こういった過程で生まれました。したがって、ワイワイガヤガヤを繰り返すだけの活動に終始する授業は、いささか主な目的から外れていると言わざるを得ませんし、そういう授業を受けながら、自らは思考を深めることをせず、先生を頼りに教えを請うばかりでは、本来のアクティブ・ラーニングの目標は達成し得ないと言えそうです。外見には静かでも、自ら思考を深め、主体的にまなぶことがアクティブ・ラーニングの目指すところなのです。

主体的で深いまなびの理解に沿えば、現代の大学では教室外でも学生が深いまなびを得られる場や機会を作る必要があります。藤女子大学図書館では、平成27年にラーニング・コモンズ、そして昨年、花川キャンパスにはアクティブ・ラーニング・エリアが開設され、両キャンパスの学生に広く利用されています。本学においては、あらたな価値に基づいた「まなびの場」を提供する一方で、学生協働という創造的な手法で大学と学生がともにまなび、運営する試みにも着手しています。図書館におけるSJ（Student Job）は、重要な本学の学生協働の一つです。図書館情報学課程の学生さんたちの実務研修としての機会だけでなく、仕事として現場に従事することで、自らが進んで深いまなびを得るための場として、非常に有効であると考えます。加えて、i.Learning Space（通称：アイランズ）で進むFSA（Fuji Student Assistants）と呼ばれる学生と大学の協働活動も昨年から始まりました。学生のまなびの場として新しくお披露目されたアイランズは、多目的なまなびを提供するだけでなく、約20名の学生が自主・自律的な管理、及び運営ができるよう、教職員との協力体制を保ちながら運用されています。

図書館のSJ、FSAに代表される学生協働はまだ始まったばかりで、完成形には遠いのですが、新入生のみなさんは新しい価値観のもと勉強を重ね、さまざまなアクティブな活動をされて、大学に入学されている方も多いはずです。新しいまなびの試みを一緒に前に進めてみませんか？学内のいろいろな「場」を通じて、学術的なまなびだけでなく、失敗も含めた自律的なまなびを通して、成長してもらいたいと考え

アイランズが提供する自律的なまなび

ています。昨今話題になっている、社会人基礎力、そして21世紀を生き抜く力を大学が提供する新しいまなびを通じて養ってもらえると嬉しく思います。

このように本学では、柔軟な学士課程を提供することで、学生諸君が受け身の学習者から脱却し、自ら進んでまなびへの地平を拡げる環境を創出、整備しています。学習が自らの知識体系に照らし合わせ、意味を見出すことを高等教育における「学修」の定義とするなら、われわれの価値観、あるいは知識は他者との関わりの中で意味づけられ、他の介在による気づきから得られることが大きなきっかけになるでしょうから、学生同士の交流を通じて、意見を交わし、自らの知識を作り上げていく場と環境を今後もサポートしていくつもりです。

最後にまとめとして、三つのメッセージで本稿を閉じたいと考えます。

一つは、大学生としての新たなまなびのカタチに対応することです。目まぐるしく変わる世の中の価値観とともに、世間の高等教育に対する期待は、どの時代にも増して変化の速度や要求レベルも上がっているうえに、大学で身につけなければならない事柄が多岐に渡っており、既存のまなびだけでは不足気味に見えてしまいます。あらたな「まなび」に対応し、新しい時代の大学生として有意義な4年間を過ごしていただきたいと思います。

二つ目は、自律的なまなびを活性化することです。教育の主体の変化の例として、アクティブ・ラーニングに触れましたが、元来は、学習者の主体的な関与、参加を伴い、認知的に深くまなびに従事することを主意とし、自律的で、学習者中心のまなびを指し、教師主体の授業形態からの脱却を意図しています。本学で実践され始めたような学生協働だけでなく、講義内においても自らが自分のまなびに責任を持って学習する姿勢を作り上げれたことで、深いまなびを実践できます。いま一度、新しい時代のまなびの主体はどこにあるのか考え、大学生としての自らのまなびを活性化していただきたく思います。

最後は、個々のまなびを深化させる場として大学全体を利用することです。大学は、学術的なまなびを授ける高等教育機関です。なかでも図書館は、学生のまなびに中心的な役割を担っています。多くの先生方が、図書館で学術的に運命的な出会いを経験されていると思います。現代の高度にネットワーク化された大学図書館では、デジタルデータが時間や距離を乗り越えてまなびをサポートするグローバルでダイナミックな出会いが可能です。偶然の出会いからまなびが深まり、世界を巡って情報を収集できた私のように、学生のみなさんも履修した科目のレポートに追われるだけでなく、自分の興味を深めるために世界と直接つながる図書館を利用されてはいかがでしょうか？　あたらしいカタチのまなびの環境が整備されている図書館、そして本学でぜひともまなびを深めて欲しいと思います。大変革の時代にあって、大学、そしてそのまなびの中心である大学図書館は、以前にも増して個々のまなびを促し、膨らませ、深められる場であると強く感じますし、大学生として大いに施設を利用して、自律的な学習者としてまなびを進めることを期待します。

図書館のあたらしいまなびの場

高校生・中学生の職場体験

昨年度図書館では、中学校2校、高等学校3校の職場体験を受け入れました。実習日数は学校によって異なりますが、図書館の基本的な仕事を体験してもらいました。カウンターでの貸出・返却、レファレンスサービスなど図書館と聞いてイメージしやすい仕事のほか、返却された本を棚に戻す配架、棚に本が順番通りに並んでいるか確認する整斉や簡単な本の修理なども体験してもらいました。中学生も高校生も真剣に説明を聞き、業務に取り組んでくれました。体験終了後、それぞれ感想を書いていただきました。

本館では、昨年度初めて高校生の職場体験を受け入れました。

9月20日　札幌旭丘高校　2名、札幌新川高校　2名
10月26日　札幌手稲高校　2名

札幌旭丘高校　藤堂さん

私は、今日の体験で初めて図書館での仕事について知りました。中学でも高校でも図書局に入ったことがないのでとても新鮮でした。私がイメージしていたよりも、楽しく、とてもやりがいのある仕事だなと感じました。また、やることが多くてたいへんだなと思う面もたくさんありました。中学や高校と違い、本が多く、種類が多いところに驚きました。

その本を一つずつ整理する仕事にとてもやりがいを感じました。私は普段あまり図書館を利用しませんが、今回の体験を通じて、もっと活用してみたいと思いました。

札幌旭丘高校　渋川さん

「図書館司書」のお仕事を具体的に学ぶことができました。特に、小説だけでなく、論文やレポートを作成する際に用いる参考書や辞書が充実していることに驚きました。また、コンピュータの貸出やデータベースを使用して目的の本、事柄、過去の新聞の検索も行っていることを知り、図書館の新しい一面ものぞくことができました。本や作家について知ることも大切だけれど、図書館を上手に利用してもらうための工夫をこらすこともかかせない仕事のひとつなのだと感じました。

札幌新川高校　井戸坂さん

私は中学生の頃から司書の仕事について興味があったので実際に仕事をすることができ、いい経験になりました。図書館での仕事はカウンターでの作業が多いイメージでしたが、実際にはそれだけでなく、本の装備や配架などさまざまな仕事があることがわかりました。

他にもデータベースを使い、本の情報や過去の新聞の記事を調べることができることも知りました。図書館での仕事は今まで自分が知っていたことだけでなくいろいろなものがあると知れて本当によかったです。

札幌新川高校　西村さん

私は元々司書という仕事に興味があったのですごく貴重な体験になりました。実際に配架作業などして、数多い本を一つ一つ丁寧に扱い、とても大事にしていることが伝わりました。ノートパソコンの貸出やデータベースの利用ができるなど本の貸出以外も行っていてすごく充実していることも分かりました。短い時間でしたが、図書館についてや司書の基本的な仕事を教えてもらい、前より興味を持ったし、もっと深く知りたいなと思いました。

札幌手稲高校　小谷さん

今回の体験を通して、仕事をすることの大変さを感じることができました。

いつも何気なく利用している図書館でも、このように日々業務があるのかと思うと、自分は今まで何も知らなかったのだなと感じます。特に、本の並びを整えたり、返却された図書を棚に戻す作業は慎重にしなければならなくて、神経を使うので少し疲れてしまいました。この経験を一時だけのものとせず、学校に戻ってからも、将来に続く毎日の学習や生活に活かしていこうと思います。

札幌手稲高校　田中さん

今回体験させていただいたお仕事は、学校の委員会でする仕事よりも複雑で、難しいと感じることが多かったです。約2年前、花川館の図書館で職場体験したことがあるので、またこのような形で1日学ぶことができ、感慨深い気持ちです。至らない点や、不慣れなところが多々ありご迷惑をおかけする場面もあったと思います。それでも丁寧に教えていただき、たくさんのフォローをしてもらいながら、貴重な学びの場とすることができました。

お忙しい中、本当にありがとうございました。

花川館では、石狩市の中学校2校の職場体験を受け入れました。

７月14日　厚田中学校　1名
11月１日－２日　樽川中学校　3名

厚田中学校　渡部さん

丁寧に仕事を教えていただき、楽しく充実した時間を過ごすことができました。

実際に作業を体験し、本の補修で細かい作業や配架作業など大変だということがわかりました。

貴重な体験をさせていただいて、本当にありがとうございました。

樽川中学校　榎本さん

私は、大学の図書館を初めて見ました。専門的な本や、あまり見たことがない本がたくさんあり、とてもびっくりしました。本の整理や貸出以外にも、図書の補修などの仕事があることなど、いろいろなことを学ぶことができました。ありがとうございました。

樽川中学校　大橋さん

今回このような貴重な時間をいただき、多くのことを学ばせてもらいました。図書館だけでなく、大学のことも詳しく知れてとてもよかったです。体験させていただいている時、興味がある本がたくさんあったので、機会があればぜひ、利用させていただきたいです。２日間という短い間でしたが、本当に楽しかったです。ありがとうございました。

樽川中学校　村山さん

今回この職場体験をさせていただいて、とても貴重な経験をしました。私たちのために大切なお時間をいただきました。１日目の時には、ワタワタしていたカウンター業務も職員の方々がやさしく教えてくださったおかげで、２日目にはスムーズにすることができました。この２日間、沢山のことを教えていただき、本当にありがとうございました。

LiSt 活動報告　第２回

［祝完成！LiStのエプロン］

すでにHPを見て知ってくださった方もいらっしゃると思いますが、私たち「LiSt」のエプロンが完成しました。今回の活動報告ではLiStという愛称の由来と、エプロンのデザインについてご紹介していきます。

私たちSJの愛称は二つの英単語から作られました。なんだかわかりますか？　一つ目は“図書館”を意味する「Library」二つ目は“学生”を意味する「Student」です。それぞれの頭文字をとり、LiStの愛称が生まれました。

エプロンは藤女子大学図書館のキャラクターとしてお馴染み「きしんさん」の姿をイメージしてデザインされました。綺麗な黄緑色の生地で作られたエプロンで、裾の方にはお花が付いています。ポケットには可愛いきしんさんが顔をだしています。困ったときはこのエプロンを目印に、私たちLiStへ気軽に声をかけてくださいね。

花川キャンパスでは、クリスマスに合わせた本の展示やポップ作りを行ってきました。今後もこのような展示や新たな活動の場を考え、報告していけたらと思います。　（花川LiSt　渡辺）

国立国会図書館デジタル化資料送信サービス利用開始

本学では、2017年12月より国立国会図書館デジタル化資料送信サービスが利用できるようになりました。

■国立国会図書館デジタル化資料送信サービスとは？

国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料を加盟図書館内で利用できるものです。

148万点以上のデジタル化資料の閲覧・複写が可能な上に、国立国会図書館からの貸出サービスの対象とならない資料（和雑誌、発行年代の古い和図書、インターネット公開されていない博士論文など）も利用できます。

ご利用は図書館内限定で、受付時間は**平日16時30分、土曜12時まで**です。印刷は職員の代行で、**コピー機利用に準じる料金（白黒10円、カラー50円）**がかかります。

ご利用希望、またご不明点等については図書館の調査・案内カウンターまでお気軽にお問い合わせください。

〈トップページ画面〉

国立国会図書館ウェブサイトより

〈表示例〉

国立国会図書館ウェブサイトより
おほかみ／グリム 原著[他]

国立国会図書館デジタルコレクションは、国立国会図書館がデジタル化した資料を検索・閲覧できるシステムです。資料のタイトルや目次などの書誌情報はインターネットで検索できます。本文の閲覧については、資料により条件が異なります。一部の資料はインターネットで公開されているので、インターネットに接続できる環境であればＰＣ、スマートフォン等から自由に閲覧できます。「国立国会図書館／図書館送信限定」と表記された資料は、加盟図書館内限定で利用できる資料です。上記で紹介したように本学では利用できます。「国立国会図書館限定」と表記された資料は、国立国会図書館の館内でのみ利用可能な資料となります。

図書館からのお知らせ

Wi-Fi 利用可能エリアが増えました

2017年夏に学内無線LANエリアが拡大し、図書館内も学内無線LAN（Wi-Fi）利用可能エリアが増えました。ユーザIDとパスワードでログインすることで、図書館で貸出しているPCや持ち込みPC、スマートフォンなどで利用できます。
不明な点は、図書館カウンターにお尋ねください。

新規データベース

2017.4から「ざっさくプラス：雑誌記事索引集成データベース」が利用できるようになりました。このデータベースでは、明治初期から現在までに日本国内で刊行された雑誌の記事情報を検索することができます。検索結果の詳細画面には、CiNiiなどへリンクがあるため、CiNiiに本文がある場合はその場ですぐに記事本文を入手できます。国立国会図書館のデータへもリンクし、左記ページで紹介の国立国会図書館デジタル化資料送信サービスとも連携しています。

図書館委員会からのお知らせ

●藤女子大学図書館利用規則の改定について

図書館の新たなサービスとして、『国立国会図書館デジタル化資料送信サービス』の導入にあたり、2017年10月に『藤女子大学図書館利用規則』（複写）第12条を改定しました。
これは本学図書館が国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを申請するために、デジタル送信にて提供された資料の複写方法、使用機器や管理等について明文化した項目の追加です。このサービスは2017年12月から利用を開始し、あわせて図書館内の複写機利用方法の一部も変更しました。従来から著作権法順守をお願いする案内を掲示しておりますが、図書館内の複写機を利用する際は、複写申込書に必要事項を記入し、備え付けの回収箱に入れてください。なお、記入いただいた個人情報の目的外利用は一切いたしません。みなさまのご協力をお願いいたします。なお、ご不明な点がございましたら図書館スタッフにお尋ねください。

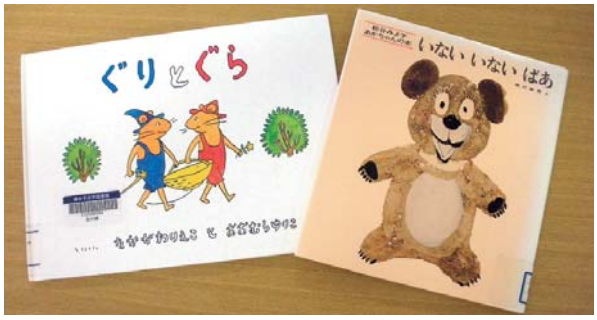
藤女子大学図書館利用規則
（複写）
第12条　利用者は、文献複写のために、著作権法の定めに従い、図書館備付の複写機を利用することができる。ただし、一部資料については複写を認めないことがある。
また、他館、他機関からデジタルデータ送信について提供された資料の複写については、著作権法上の定めに従い、図書館職員が、管理用の専用端末にて行う。（下線部が追加項目）

図/書/館/資/料 Navi（ナビ） 第11回

花川館の絵本・雑誌

本学非常勤講師（元本学保育学科 教授） 杉浦　篤子

2000年、藤女子大学保育学科は、北海道で初めての4年制保育者養成校として花川校舎へ学びの場を移しました。短大の保育科があった割には、図書館に絵本はあまりありませんでした。花川校舎に移転したこと、4年制になったことをきっかけに絵本を充実させたいという思いが学科にあり、図書館の協力もあって、多くの絵本が揃えられています。絵本は生ものと言われるほど、店頭から消えてしまう時間が早く、読者が要望しない限り手に入らなくなります。反対に長生きの絵本たちもいて、1963年福音館書店から出版された『ぐりとぐら』、1967年、童心社から出版された『いないいないばあ』のように今も店頭にある本もあります。



絵本ブームと言われている昨今、1年間の出版数は、児童書は海外からのものも含めて1500冊以上、絵本はその半分と言われています。12か月で割ってみると1か月に60冊以上の本が出版されていることになります。図書館は随時新しい絵本を入れてくれていますので、1冊ずつ、ゆっくり手に取って見ておいて欲しいものです。

中でも、仕掛け絵本作家、自らを造本作家と呼んでいるデザイナーの駒形克己さんの絵本は、もう絶版になっている『HANA』や『NORA』が収蔵されており、また様々な仕掛けを使った作品があります。特に色彩と仕掛けが融合した作品に特徴があり、『Blue to blue』、『Yellow to red』、『Green to green』など目を見張る美しさだと思います。

『ピーターラビット』は英語版と日本語版が並んでいますので、読み比べてみてください。原文と突き合わせてみると、思わぬ発見があることもあります。

さらにこの花川館は子どもの雑誌が継続して集められていることも特徴です。雑誌のコーナーに行ってみてください。キリスト教をバックボーンとした至光社からの「こどものせかい」はかなり古い時代からのものがあります。福音館書店からの「こどものとも」は4種類、「こどものとも0・1・2」などが揃っています。雑誌は長い間あってこそ生きてくるものなので、雑誌の棚も忘れず見てほしいものです。

絵本はその中に宝物が一杯詰まっている箱のようなもの、その蓋をあけるのは、あなたかもしれません。

● 編集後記 ●

図書館だより95号をお届けいたします。

巻頭言は「大学でのあたらしい「まなび」とは？」と題して英語文化学科の工藤先生にご寄稿いただきました。図書館は、「自ら進んで「まなぶ」」ことが出来る場として、資料だけではなく、データベースも利用できます。「偶然の出会いから、まなびが深まった」とあるように、学生のみなさんも様々な出会いをしてください。

図書館資料Naviは「花川館の絵本・雑誌」と題して元保育学科の杉浦先生にご寄稿いただきました。絵本は花川館のみではなく、本館にも所蔵があります。

LiSt活動報告では、「きしんさんエプロン」が紹介されています。LiStは平日の昼間も図書館内で活動しています。「きしんさんエプロン」を目印に気軽に声をかけてください。

今回もたくさんの方々にご協力いただき無事に発行することができました。ありがとうございました。（W）

図書館キャラクター「きしんさん」

スマートフォンではアプリを利用できます

藤女子大学 図書館だより 第95号 2018.3
発行者 藤女子大学図書館 札幌市北区北16条西2丁目
TEL 011-736-5407　FAX 011-709-4770
http://www.fujijoshi.ac.jp/library/